

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege: Oden Building 21-4 Higashi-

Marnouchi Tsu JAPON ☎0592 (26) 3159

N°012 le 20 Avril 1990 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

5/13(日)に1990年度総会

フランス総領事 ルネ・ベレ Renée VEYRET さんを迎えて

三重日仏協会の1990年度定例総会を下記のように開催いたしますので、この紙上にてお知らせいたします。ぜひご出席下さい。

総会に続いて歓迎レセプションも

当日は、かねてから三重県訪問を希望しておられたフランス大阪・神戸総領事のルネ・ベレ夫人が来賓として出席される予定で、協会のメンバーと交流を深めたいとっておられます。皆さんも、それぞれ関心のある話題や質問事項などを用意しておいでいただくと好都合です。

ベレさんは、1946年生まれ。東アジアに興味を持ち外務省入りし、1977年から4年間、在日大使館に勤務したこともある日本通です。夫君を本国に残して単身赴任中。

5月13日(日) 津市大門 割烹「茂波」(休業日ですが洋室を借り切り)

(モミ=mon ami?) 5F ラウンジ

3:45 受付 会費納入など

4:00 総会

総領事を囲んで談話会

4:45 レセプション

会費 4,000円

(美酒、珍味を用意します)

同封のハガキで4月中に、出欠をご回答ください。



私の中のフランス

大野 登美子

私が強くフランスに魅かれるようになったのは、四年半前、五才と三才の二人の子どもを残して私一人、友達夫婦についてフランス旅行を経験したときからです。

出発の二週間ほど前、急性中耳炎にかかり激しい痛みのなかでの通院の日々。私は旅行を諦めようと心に言い聞かせていた頃、「フランスに対する情熱なんて、その程度だったのか。」との主人の言葉に励まされ、薬を持参で出発しました。

自宅で料理教室を開いていた私にとって、フランスでの食べ歩きは長い間の夢でした。

パリの店では、De l'eau, s'il vous plaît. とどたどしいフランス語で、薬のための水をいつも注文していました。(コーヒーとほぼ同じ値段の水に驚かされながら…)。

私にとっては初めての海外旅行だったので、目に触れるものすべてが新鮮で、いつか耳の痛みも忘れていました。

フランス滞在はパリだけでしたが、街並みの調和のとれた美しさ、街ゆく人のセンスの良さが目にはいり、パリ

＝調和のある街…それが私の第一印象でした。古い街並みや史跡のなかに歴史の重さ、伝統、文化を、かたくなに守り続けるフランスを感じ、一方、ポンピドー館のような斬新な建築を導入していく新しいフランスを感じながらも、あくまでも調和のとれた芸術性を大事にする国民性に感動を覚えたものでした。またルーブル美術館を訪れた二日間、キャンバスを立てて絵を模写している人を見つけたとき(その姿は不思議なくらい周囲の雰囲気には溶け込んでいました)、ほんのわずかな入場料で人々に芸術を本当の意味で広く開放している、そのお国柄にふれ心熱くなる思いでした。

パリではクリスマスを迎え、シャンゼリゼ通りのツリーのイルミネーションはひととき美しく輝いていました。ケーキ店の中はノエル一色。「貧しいきこりが恋人へのプレゼントとして、森でみつけた一番美しい木の切り株を贈った」という言い伝えから、「恋人への真の愛」の象徴とされるノエル。

このロマンチックないわれのために日本でも人気のあるケーキですが、パ



(写真) 華やかに飾られた bûche de Noël たち

りのノエルの種類の多さと鮮やかさは日本の比でなく、夢中でカメラに収めたものでした。

パリ四日間の散策のなかで、二十種類のケーキを口にした私ですが、どれも味に濃さと深みがあって個性的でした。本場のフランス菓子をしっかり味わったこと、これは私の大きな財産になりました。

あれから四年半、「人生における感動は早いほどいい。」と言って、私をフランスに行かせてくれた家族に感謝しています。そのうえフランスの思い出の新鮮なうちに日仏協会に入れていただき、料理講座担当の運営委員という大役をいただきましたので、嬉しくお役に立ちたいと思っています。

フランス料理の本を読みたいという気持ちで昨年十二月より習い始めたフランス語、フランスへの思いの中で学ぶフランス語は、私にとって出発前より身近で楽しいものとなっています。

これからもマイペースで楽しくフランスにかかわって行きたいものです。

(津市在住)

Sacha GUITRYは

サシャ ギトリ

女性の敵?

「賛成」、「反対」、「味方」、「敵」などを辞書でみると多くの難しい訳語が出てくるが、かんたんには <pour> と <contre> なのであろう。大修館のスタンダード和仏でも、「君はこの決議に賛成なのか反対なのか」は Etes-vous pour ou contre cette résolution? と訳されている。この contre を tout contre と強めていけば「まったく反対、まったく対立」となるのだが、これらの「対」は「向かい合う」でもあるので、「ぴったり向かい合う」、たとえば左右の手のひらが向かい合い、ぴったり接しあった状態も tout contre なのだ。

Sacha GUITRY (1885-1957) は父 Lucien とともに劇作家にして俳優。しゃれたサロン喜劇の作者、いわゆる Boulevard 劇の代表的人物として一時代を画したといれる。この Sacha GUITRY に、ある人がそれこそ Etes-vous pour ou contre les femmes? とでも尋ねたのであろう。そのとき GUITRY すこしもさわがず、こう答えたという。

Je suis contre les femmes; tout contre.

ふらちな答えであるが、このあたりが彼の esprit であり、jeu de mots であり、また野暮な質問に対する trahison du boulevardier なのであろう。

(OURS)

フランス語入門講座が大盛況

Jean-François DAMÈMEさんを講師に

今年度の日仏協会主催のフランス語入門講座は、津市のオーデンビルで2月16日から毎金曜日、12回シリーズで実施しています。今回はたまたま休暇で松阪に滞在中のフランス人(公務員)ジャン-フランソワ・ダメモさんを講師にお願いしたこともあって、申し込みが多く、約40人が参加して熱心に勉強しています。

途中の参加者へのアンケートでも好評のようでした。

いっぽう四日市市でも講座開催の気運が高まり、本会会員の豊田さん宅で、ダメモさんを講師に6人が参加して独自に勉強が始まっています。



INFORMATIONS

Dîner

<ブルゴーニュ公の大晩餐会>

14世紀、フランス国王を招いて開かれたブルゴーニュ地方自慢の料理、名酒の大晩餐会。これを現代に再現するという興味ある企画。

5月15日(火) 6:30pm

四日市都ホテル・伊勢の間

前売券 20,000円

オペラ・アリア重唱のアトラクションあり。赤白銘酒つき。

Cinéma

仮面の中のアリア

le maître de musique

(1988年/ベルギー映画/カラー/1時間40分)

●監督ジェラルド・コルビオ ●主演ホセ・ファン・ダム

限りなく美しい音楽映画!

芸術歌曲の素晴らしさを初めて映像化した珠玉の名篇!!

三重優秀映画鑑賞会 創立10周年記念 特別上映会

5月20日(日) 12時 24時 6時30分
会場 三重県文化会館ホール

■入場料 前売 一般1200円 学生1000円